

A区分・C区分共通
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和6年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	演劇	種目	児童劇
----	----	----	-----

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分
------	-----

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	有	申請総企画数	2企画
---------	---	--------	-----

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	公演の実施時期が重複しても、複数の企画を実施可能
--------------------	--------------------------

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	きぎょうくみあい げきだんかぜのこきゅうしゅう 企業組合劇団風の子九州	団体ウェブサイトURL	https://kazenoko-kyushu.com
代表者職・氏名	代表理事 仮屋祐一		
制作団体所在地	〒 814-0002 福岡県福岡市早良区西新5丁目5-13	最寄り駅(バス停)	福岡市営地下鉄空港線西新駅
電話番号	092-841-7889		
ふりがな 公演団体名	げきだんかぜのこきゅうしゅう 劇団風の子九州	団体ウェブサイトURL	https://kazenoko-kyushu.com
代表者職・氏名	代表 おやまじゅん		
公演団体所在地	〒 814-0002 福岡県福岡市早良区西新5-5-13	最寄り駅(バス停)	福岡市営地下鉄空港線西新駅
制作団体 設立年月	1985年 4月		
制作団体組織	役員 代表理事 仮屋祐一 理事 浅野由美子、理事 川島二郎 理事 中島 司、監事 矢野ひとみ	団体構成員及び加入条件等 俳優:12名、企画制作部:5名 文芸演出部:1名【合計18名】	
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	事務(制作)専任の担当者 を置く	本事業担当者名	仮屋祐一
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者名	鈴木恵美
本申請にかかる連絡先 (メールアドレス)	info@kazenoko-kyushu.or.jp		

<p>制作団体沿革</p>	<p>企業組合劇団風の子九州は、1985年東京の劇団風の子から運営独立し「劇団風の子九州班」として福岡市に創立され、その後1993年に法人独立し現在に至る。 児童・青少年演劇の制作と上演・普及活動を行っている。</p> <p>*2003年以降ほぼ毎年、文化庁委託・補助事業に採択実績あり。 *年間500ステージ以上、9万以上の子どもたちに観て頂いた実績あり。</p>		
<p>学校等における公演実績</p>	<p>劇団創立の翌年1986年より37年以上の学校公演実績あり</p> <p>【2022年度実績】 小学校公演：「やだ、やだあっかんべ〜！」 64日103ステージ 「なるほ堂ものがたり」 23日41ステージ 他、3演目 28日46ステージ 5演目合計 115日190ステージ</p> <p>【2021年度実績】 小学校公演：「このゆびと〜まれ！」 29日50ステージ 「やだ、やだあっかんべ〜！」 10日15ステージ 他、4演目 19日29ステージ</p>		
<p>特別支援学校等における公演実績</p>	<p>【福岡県】福岡中央特別支援学校、南福岡特別支援学校、 福岡県立特別支援学校北九州高等学園、嘉穂特別支援学校 【長崎県】鶴南特別支援学校、大村特別支援学校、川棚特別支援学校、島原特別支援学校 希望ヶ丘高校特別支援学校、諫早東特別支援学校、諫早特別支援学校 【宮崎県】みなみのかぜ支援学校、赤江まつばら支援学校、清武せいりゅう特別支援学校、 くろしお支援学校、児湯るびなす支援学校、みやざき中央支援学校 【沖縄県】島尻特別支援学校、宮古特別支援学校 【福島県】大笹生支援学校 【広島県】広島県立呉南特別支援学校</p> <p>ほか公演実績多数</p>		
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>	
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p>https://www.youtube.com/watch?v=tQg-d5wg-OI</p>	
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>ID:</p>	<p>なし</p>
		<p>PW:</p>	<p>なし</p>

公演・ワークショップの内容

【公演団体名

劇団風の子九州

】

対象	小学生(低学年)	○		
	小学生(中学年)	○		
	小学生(高学年)	○		
	中学生	-		
企画名	空想力は生きる力！「このゆびと～まれ！」公演			
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	本公演演目：「このゆびと～まれ！」 作・演出：あさのゆみこ 音楽・効果：曲尾友克 美術：山本佐助、小峯三奈		公演時間 75 分	
著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当なし	該当コンテンツ名	
	該当事項がある場合	権利者名	許諾確認状況	
演目概要	<p>劇団風の子九州のオリジナル作品です。企画の段階では原作物の案も出てはくるのですが、今を生きる等身大の子どもが主人公として活躍する作品のほうが、劇団の制作姿勢が伝えられると落ち着きます。</p> <p>本作も劇団員全員で子供を取り巻く状況を出し合い、背景を探り、登場人物を出し合いました。</p> <p>その後、脚本家を中心とした台本プロジェクトに託し、現場の先生方や本作の主人公と同じ小4の子供たちへインタビュー等を経て出来上がった台本なので等身大の子どもたち本音を代弁し、共感の輪も広がります。</p> <p>また公演現場では、オリジナル作品ということで子供たちや先生方が作品展開を読めず最後までストーリーに集中していて、わたしたちのモットーとするワクワクドキドキの世界も共感してもらっています。</p> <p>舞台転換も見ものです。</p> <p>中央に直径5m(60cm高)の廻り舞台を設置し、三面の舞台が場面毎にクルクル回転します。</p> <p>また大海原の場面では廻り舞台が三つに分割され、それぞれ独立して動き出し、あっという間に大海原に浮かぶ大海賊船が登場したり、目的地の島のうっそうとしたジャングルが登場したりして、目の前のスペクタクルな光景に子供たちは圧倒され、どよめきの声を発したりします。</p> <p>(あらすじ)</p> <p>ヒロは小学4年生。空想遊び(ごっこあそび)の天才、いつも色々な人物になりきっています。</p> <p>そのためクラスではちょっと浮いた存在。父親は長期入院中で、母親は入院費を稼ぐために残業も多く、ヒロは近所の駄菓子屋のばあちゃん(スエコ)や大工のじいちゃん(銀蔵)に面倒をみてもらっています。</p> <p>ヒロの日課はスエコの飼犬の鉄(テツ)の散歩に出かけること。</p> <p>その散歩はヒロの大好きな空想の時間。あるときは洞窟探検のヒロ隊長、またあるときは大海賊キャプテンヒロに大変身。</p> <p>ある日、クラスで起きた事件をきっかけに、ヒロはクラスで一番頭のいいマモルを空想の世界へ誘います。実はマモルはヒロをバカにしていました。喜ぶヒロと戸惑うマモルは遊びの力を呼び戻す空想珠(くうそうだま)を探しに無限島へ出発することに！過酷な冒険の末、空想球を取り戻した二人に友情が芽生えます。子供たちの本来持っている想像力にエールを送る作品です。</p> <p>*平成27年度文化庁・文化芸術振興費補助金(トップレベルの舞台芸術創造事業)助成作品 *平成30年度文化芸術による子供の育成事業-巡回公演-採択作品 *令和元年度・令和2年度・令和3年度文化芸術による子供育成総合事業-巡回公演-採択作品 *社会保障審議会推薦児童福祉文化財(舞台芸術)</p>			

<p style="text-align: center;">演目選択理由</p>	<p>子供たちは、空想の世界を遊ぶことや、冒険が大好きです。かつて、子供たちは、暗くなるまで野山をかけめぐり、飽きるまで友達と遊んだものです。かたわらには子供たちを、優しく見守り、声をかけてくれた大人たちもたくさんいました。しかし、現代社会の急激な変化は、様々な形で子供たちの育ちに大きな影響を及ぼしています。子供時代の空想力は将来の専門的な教育を受けるときの強力な推進力になります。しかし今の時代、それを醸成するはずの三間(時間、空間、仲間)はますます奪われ、また大人たちも忙しく、他人の事に無関心にならざるを得ない状況になっているのではないのでしょうか。</p> <p>本作の主人公の一人「マモル」には、裕福な家庭でありながら、大なり小なり色々なプレッシャーを受け、子供の本来持つ感性を萎縮させざるえない現代の子供像を投影しています。</p> <p>一方「ヒロ」は決して裕福な家庭環境ではないが、地域の住人に支えられ子供の感性を謳歌している空想の天才。</p> <p>この二人の交流を軸に、劇中劇のような『空想の世界』を随所に織り交ぜ、現代社会が失いつつある家族愛や、人情、友情を描きました。</p> <p>ある先生からは「公立小学校には複雑な家庭環境の子どもたちも通い、地域性も様々だが、この作品は、笑いの壺が随所に散りばめられていて、クラスの子供たちが分け隔てなく笑いながら、最後は主人公たちに共感している。」という声をいただきました。子供たちにとってとても心に残る作品ですので、舞台芸術への登竜門と芸術鑑賞能力の向上につながる演目になると自負しています。</p> <p>◎子供たちに、目の前で繰り広げられるスペクタクルな舞台にワクワクしてもらい、想像力・発想力を高めてもらいたいと考えます。また、主人公たちと一緒に空想の世界をおもいっきり遊び、明日への希望に胸を膨らませられる演目ですので、教室や自宅に帰ってから、クラスの友達や先生・保護者らと芝居の話で盛り上がり、コミュニケーション能力の育成に役立ちます。</p> <p>◎一緒に観劇してもらう大人たち(先生、保護者等)には、子供時代を思い起こしていただき、現代の厳しい状況に追い込まれている子供たちを認識し、共感してもらい、さらに寄り添っていただきたいとの思いを込めています。</p> <p>◎戦後70年数年を経た今、こどもたちに平和の尊さを伝えるべく、劇中に戦時中の子供たちの生活のエピソードを描いています。日頃の食料が乏しかった時代を想像してもらうことにより、飽食の時代を生きる子どもたちに食べ物を粗末にしてほしくないという思いを伝えたいと考えます。</p> <p>◎子どもたちの出演場面は、演劇は表現あそびの延長であるという視点で、なるべくプレッシャーを与えない楽しい動きや歌・ダンスの場面にしています。ラストに客席から海賊船の前に登場した子どもたちが生き生きと歌って踊るシーンは、観客側の子どもたち、先生・親御さんたちにも、子どもたちの前途洋々の未来を感じてもらえます。</p> <p>*以前採択時のフィードバックシートには、児童・先生・保護者の皆さんにとっても喜んでもらっている感想がつつられていました。来年度も舞台芸術に興味を持っていただけるよう、引き続き多くの子供たちに届けたい演目です。</p>
---	---

① 団オープニング

プロローグのヒロの空想の場面。映画「インディージョーンズ」風に洞窟の中で敵に追われているヒロと鉄(人間)にまわりつく、コウモリをクロスと一緒に演じてもらいます。先端にコウモリの付いた針金を持ち演じます。せりふはないが、緊張感の必要な場面。でも「だるまさんがころんだ」のような緊張と緩和のあそび感満載の表現です。ただしお客さんに「この場面をちゃんと伝える。」ということ意識して演じるという事も指導します。コウモリは手作りでも良いし、劇団でも用意できます。出演者上限6名。



*やる気マンマンの子どもたち



*コスチュームにもこだわりました。

児童・生徒の共演、参加又は体験の形態

② 団エンディング

子どもたちと出演者でテーマソング「このゆびと〜まれ!」の歌をうたいながら踊ってもらいます。ドラマ観劇後の昂揚感にふさわしい楽しく元気な歌と踊りです。可能であれば、各自海賊の衣装や帽子を製作し着けてもらいます。出演者上限40名



出演者

山本佐助、玉木聡美、おやまじゅん、寺崎花絵、稲永清音、伏貫哲也、矢野武徳、小池勇治
(変更になる可能性あり)

本公演
従事予定者数
(1公演あたり)
※ドライバー等
訪問する業者人数含む

出演者: 8 名
スタッフ: 1 名
合計: 9 名

運搬

・マイクロバス 車長 6.99m
・ワゴン車 車長 5.38m
台数: 2 台

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	無	前日仕込み所要時間		3	時間程度
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	8:00	8:00~11:00	13:30~14:45	なし	15:30~17:30	17時30分
↑ 仕込み後、出演児童とのリハーサルが入ります。(11:30~12:15) ※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。						

本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月	
				5日	9日	
	11月	12月	1月	計	14日	
※平日の実施可能日数目安をご記載ください。						

児童・生徒の 参加可能人数	本公演	共演人数目安	40名以下
		鑑賞人数目安	500名以下

公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出がわかる写真)



↑ コロナ禍以前の児童出演場面

↓ 舞台全体の様子、回り舞台が分割、その後海賊船が出現します。

※採択決定後、図面等の提出をお願いします。



【公演団体名 劇団風の子九州】

児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	40名以下
ワークショップ 実施形態及び内容	<p>☆ プロローグの場面。洞窟の中、こうもりチームは上手(かみて)チーム、下手(しもて)チームに分かれ、リーダーの俳優を中心に演技を創っていきます。<u>息のあった表現を追及してもらい、協調性を高めてもらいたい</u>と考えます。</p> <p>☆ エンディングの場面。ダンスチームはテーマソングの歌詞に沿って、当て振りの覚えやすい振付を練習し、<u>みんなで思いきり表現する楽しみを体験してもらいます。</u></p> <p>☆ 発表の時間は他のグループの表現をお互い見合い、自分たちの表現の振り返りをしてもらい、「<u>観客に伝える表現</u>」というものを再度意識してもらいます。このことにより友達の違った一面を感じ、自分の新たな可能性を発見してもらい、<u>自他共に認め合う事でコミュニケーション能力の育成を図りたい</u>と考えます。</p> <p>* 29年度のフィードバックシートのある学校の意見に「3クラスの内、1クラスしか参加できなかったので他の2クラスの児童のクラスの気持ちはどうだっただろう。」とおもんばかっての記述があったので、希望があれば先生方とよく相談して、<u>ワークは学年全員、出演は1クラス</u>での方向に改善したいと考えます。</p>		
ワークショップのねらい	<p>①子どもたちは思春期の入口にさしかかる頃、自我の目覚めと共に他者からの目を意識し始めます。そのことにより人前に立つ、または人前で話す、ましてや人前で演じるということに相当なプレッシャーを感じる子どももいます。そこで演劇とは「<u>ごっこ遊び</u>」や「<u>まねっこあそび</u>」の延長であり、今回の舞台表現は「<u>遊びとしてみんなで楽しんで演じてほしい</u>」と伝えるためのワークを心がけます。</p> <p>②学校側としては、出演出来る児童を選抜するのが難しく、<u>クラス全員で取り組みたい</u>との要望があります。そこで、二つの場面共、上限を40名程度として、ワークショップとその後の本番に向けての練習をクラス一丸で取り組んでもらい、<u>クラスの団結という協調性を育む教育的効果を目指してもらいます。</u></p> <p>* 事前に、実際の子どもたち出演場面のDVDや、歌ってもらうテーマソングの楽譜やCD音源を送付して、出演場面のイメージを持ってもらったり、テーマソングを聞いてもらったり練習してもらい、<u>ワークや本番に向けてのワクワク感を醸成してもらいます。</u></p> <p>ワーク当日は、最後に、お互いの練習の成果を発表し合い、出演する際の慣れや観てもらう感覚を自覚してもらい、<u>本番に向けて更なる精進を促します。</u></p>		
その他ワークショップに関する特記事項等	<p>特別支援学校では、各子どもたちの被支援の状況を先生方と綿密に打合せを行い、表現方法の可能性を探っていきます。例としては、ベットの子どもさんに鳴り物を持ってリズムをとってもらい、車椅子の子どもさんは先生が一人ずつ付いて車椅子ダンスを披露したことがあります。</p> <p>* コロナ禍での本事業において、学校(教育委員会)側から子どもたちが舞台上で歌うことの自粛を求められたケースが数校ありました。そこで、来年度の対抗策として、テーマソングの歌詞を手話で表現してもらい、本事業のねらいである共演での舞台芸術とのふれあいを保証できたらと考えます。</p>		

本事業への申請理由

【公演団体名 劇団風の子九州】

<p>本事業に対する 取り組み姿勢、および 効果的かつ円滑に実施するための工夫</p>	<p>①本事業に対する取り組み姿勢</p> <p>* 少子化や経済格差の影響で激減しつつある学校における鑑賞行事の起爆剤として本事業の手を借り、子どもたちの芸術鑑賞能力の向上を図ります。</p> <p>* 効率のよい移動の巡回スケジュールを組み、参加する俳優やスタッフのコンディションに配慮し、疲れを軽減し、作品の質を保ちます。</p> <p>* 採択地の各市町村と連絡を取り合い、事業のアピールと充実を訴えます。</p> <p>* 子どもたちにワクワクドキドキの鑑賞と体験を味わってもらい、芸術に関心を持つ子どもたちを育て、将来の観客や芸術家の育成を目指します。</p> <p>* 文化庁の事業なので、マスコミにも積極的にアピールして、教育関係だけでなく一般社会にも、児童演劇ジャンルと児童劇団の可視化を目指し、子どもたちこそ芸術が必要という認識を拡げること努めます。</p> <p>本事業は、子どもの健全な成長を願い、芸術に身近に触れてほしいという私たちの思いと強く通じるので申請します。</p> <p>②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫</p> <p>* 採択された学校と本年度中に連絡を取り、次年度の学校行事に調整に間に合うようにしたい。</p> <p>* なるべく早めに次年度担当の先生に連絡を取り、改めて本事業の趣旨を説明し、今後の流れを確認します。(本事業申請の担当が年度をまたぐと変更になる事が多いため)</p> <p>* なるべく早く、映像や音源等の資料を送付し、担当教諭と子どもたちが本事業をイメージしやすいように心がけます。</p> <p>* ワークショップ・リハーサル等は、楽しい雰囲気を作りながらも、子どもたちにも限られた時間の中で集中の大切さと、出演することの緊張感と責任感を意識させながらも、団結力を高めコミュニケーション力の向上を目指します。</p> <p>* 終演後は、出演した子どもたちと一緒に舞台上で記念撮影して、お互いの労をねぎらいます。</p>
---	---

リンク先

No.2

【公演団体名

劇団風の子九州

】

舞台写真

ヒロの子供部屋には、
楽しい物がいっぱい
「もぐらたたきゲーム」



ヒロの近所の、スエ子ばあちゃん、
銀蔵じいちゃん、犬の鉄。



無限島の大蛇「ダイジャジャー」

